

“本物の素晴らしさを届けたい”
(大空町 「赤石農場(赤石 昌志 氏)」)

1 経営の概要

- (1) 有機栽培経験年数 24年（昭和60年頃から取り組み）
- (2) 経営形態 個人経営（家族労働力3名）
- (3) 経営規模 14.4ha（うち有機栽培2.25ha）（平成21年度）
- (4) 作物別栽培面積（平成21年度）

（単位：ha）

区 分	かぼちゃ	ばれいしょ	てんさい	アスパラ(露地)
栽培面積	6.0	3.0	4.7	0.7
うち有機栽培面積	2.1	0.5	—	0.15

- (5) 主要作物の生産量（平成20年度）

（単位：t）

区 分	かぼちゃ	ばれいしょ
生産量	84	75
うち有機栽培生産量	30	10

2 有機農業取組の経緯等

(1) 有機農業の取組動機

- ・昭和60年頃に青年部活動の一環として大豆とばれいしょの無農薬・無化学肥料栽培を研究課題として仲間と取り組む。
- ・50aの畑は雑草でどこに作物があるのかわからない程だったが、通常の倍以上の労力をかけて収穫を行った。
- ・化学肥料や農薬なしで作物が育たないと先入観があったが、予想に反して収量が確保でき、これを機会に「食べる側にも作る側にも身体にやさしい野菜の生産に取り組もう」と考えた。



(2) 取組経過

- ・平成元年にアトピー性皮膚炎の子供たちへの手助けにと思い、有機栽培のばれいしょと小麦を作り始めた。その後、小麦は需要の増加にともない収穫・乾燥作業が一般栽培との区分けが困難となったため取りやめた。
- ・これらの取り組みが口コミで広がり、希望者が増えるとともに「他の野菜も作って欲し

い」との声が寄せられるようになり、親しい仲間7人で有機栽培に取り組む「大地のMEGUMI」を結成した。

(3) 取組内容

- ・「安心」「安全」「おいしい」をスローガンに「大地の MEGUMI（現在は株式会社）」として、現在は会員9名のグループで生産・加工・販売に取り組んでいる。
- ・「大地の MEGUMI」は有機栽培かぼちゃ、有機栽培ばれいしょ、有機栽培アスパラガス、特別栽培ばれいしょ、特別栽培たまねぎなどを栽培している。
- ・また、農産物加工品の開発、製造、販売も行っており、農産物の付加価値化と有効利用に努めている。(加工品：いももち、かぼちゃもち、コーンコロッセ等)



写真1 協議会活動（現地研修風景）

(4) 有機農業取組みの考え方

- ・「おいしいものはカラダに良い！ “有機野菜”がおいしいのは、自然の恵みをたっぷり受けて育っているから。自然の味や香りの本物の素晴らしさを消費者に届けたい。」

(5) 有機JAS認証の取得

- ・平成13年に大地のMEGUMI（生産工程管理者）で認定を取得



写真2 協議会活動（学習会風景）

(6) その他

- ・平成22年1月に地域農業者に対する有機農業に係る生産技術支援や、情報交換を目的として設立された「オホーツク有機農業推進協議会」の発起人として発足の中心的な役割を担う。

3 有機栽培管理技術等の特徴（かぼちゃ）

[有機栽培管理の概要]

(1) 品 種： 雪化粧・こぶき

(2) 作業体系

5月下旬	6月中旬	7～9月	9月下旬
は種	移植	手取除草	収穫・調整・選別

(3) 生産性： 約1,400kg/10a

[栽培管理技術等のポイント、工夫]

(1) 土づくり

- ・有機物施用：有機質肥料（トントンミネラル） 80kg/10a
- ・有機物種類：牛糞おがくず堆肥 3t/10a（前年秋施用）

(2) 病虫害防除

- ・完全無農薬（生物農薬、銅剤等も全く使用していない）
- ・一般栽培のかぼちゃ畑で生育後半に多発生する「うどんこ病」が有機栽培畑ではほとんど見られない。

(3) 雑草対策

- ・ロータリーカルチ及び手取り除草

4 生産物の出荷・販売

(1) 有機 JAS 農産物販売実績（平成 20 年度）

- ・有機栽培かぼちゃ : 30 t
- ・有機栽培アスパラガス : 400 kg

(2) 主な販売先

- ・有機栽培かぼちゃ : 道外のスーパーとの契約販売
- ・特別栽培ばれいしょ : 道外のスーパーとの契約販売で、地元の青果業に包装委託をして発送している。
- ・農産加工品 : 宅配

5 消費者との交流の取組み

(1) 「見える農業」「触れる農業」「語り合える農業」を目指して！

- ・消費者の方々に実際に安全・安心な農産物の生産現場を体験してもらう目的で、宿泊できる施設「輝農館」を整備している。

(2) 食育への取組み

- ・子供たちに農業に対する正しい理解と有機農業を通じた「食の安全・安心」についての関心を深めてもらう目的で、「有機かぼちゃの栽培体験」を行っている。

6 生産者のつながり、関係機関・団体等との関わり

(1) 「オホーツク有機農業推進協議会」活動

- ・有機農業講座等を開催し、地域農業者の生産技術の向上を支援するなど地域有機農業の牽引役を担っている。

(2) 小学校総合学習支援活動

- ・食育への取組み支援事業として地域小学校の栽培体験を受け入れている。

女満別・東藻琴両小学校 6 学年の総合学習として、かぼちゃのは種・生育観察・収穫体験を通じて農業に対する正しい理解と、有機農法による食の安全・安心についての関心を深めることを目的としている。



写真 3 : かぼちゃ定植業風景

(3) 「輝農祭」への支援

- ・「大空町食と農を考える協議会」が主催する農業祭（明日の農業を支える子供たちへの贈り物）への積極的な支援活動を行っている。

※ 「輝農祭（輝農館まつり）」

大空町食と農を考える協議会が主催し、21年度は10月に「道の駅メルヘンの丘めまんべつ」において第7回が実施された。

地元農産物販売の他、音楽ステージやフード・雑貨などのブースを設け、住民が地元の農業をともに考え実感できるイベントとなっている。



写真4 「輝農祭」有機かぼちゃ販売風景

(4) 農商工連携事業

- ・地元建設業界の農業分野における新規参入に向けた研修の受け入れを行っている。

7 今後の課題と方向

(1) 有機栽培の普及（仲間づくり）

- ・地域内に留まらない広域的有機栽培の広がりを図り、仲間作りを進めたい。そのために、「オホーツク有機農業推進協議会」を立ち上げ、協議会を中心とした学習会や情報交換を行う。

(2) 新たに有機農業を取り組む方にアドバイス

- ・有機農業について地域の人たちに理解してもらうことが重要です。そのためには地域の方々と強調しながら連携を深め、信用を得ることがもっとも必要です。

〈作成：網走農業改良普及センター〉